【薩摩川内市・さつま町版】

川内川水防災河川学習プログラム 小学校 5 年生 社会科 小単元「自然災害を防ぐ」

複式学級版

〇川内川水防災河川学習プログラム「自然災害を防ぐ」

1.学習指導要領における第5学年の目標(学習指導要領*より抜粋)

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- □ 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、 国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎 的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- □ 社会的事象の特色や相互の関連,意味を多角的に考える力,社会に見られる課題を把握して,その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力,考えたことや選択・判断したことを説明したり,それらを基に議論したりする力を養う。
- □ 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

※文部科学省(2017)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編」

2.学習指導要領における単元の内容(学習指導要領*より抜粋)

- (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
- ア次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から 国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めてい ることを理解すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 災害の種類や発生の位置や時期,防災対策などに着目して,国土の自然災害の 状況を捉え,自然条件との関連を考え,表現すること。
- □ 我が国では、国土の地形や気候などとの関係から地震災害、津波災害、風水害、火山災害、 雪害などの様々な自然災害が起こりやすいこと、自然災害はこれまで度々発生しこれから も発生する可能性があることなどを基に、国土の自然災害の状況について理解する。
- □ 国や県などは、砂防ダムや堤防、防潮堤の建設、津波避難場所の整備、ハザードマップの 作成など、自然災害の種類や国土の地形や気候に応じた対策や事業を進めていることなど を基に、国土の自然災害への対策や事業について理解する。
- □ 社会的事象の見方・考え方を働かせ、国土の自然災害の状況について、例えば、これまで に我が国においてどのような自然災害が、いつどこで発生したか、自然災害による被害を

どのように減らす対策をとっているかなどの問いを設けて調べたり、自然災害と国土の自然条件を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現する。

- □ 我が国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて、自然災害が発生する理由や、国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、文章で記述したり、白地図や年表、図表などにまとめたことを基に説明したりする。
- □ 自然災害が発生しやすい我が国においては、日頃から防災に関する情報に関心をもつなど、 国民一人一人の防災意識を高めることが大切であることに気付くように配慮することが大 切である。

※文部科学省(2017)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編」

3.第5学年の評価の観点の趣旨(参考)*

知識•技能	思考•判断•表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の国土の地理的環境の特	我が国の国土や産業の様子に関	我が国の国土や産業の様子に関
色や産業の現状、社会の情報化	する社会的事象の特色や相互の	する社会的事象について、我が
と産業の関わりについて, 国民	関連,意味を多角的に考えたり,	国の国土に対する愛情をもち産
生活との関連を踏まえて理解し	社会に見られる課題を把握し	業の発展を願う国家及び社会の
ているとともに,地図帳や地球	て、その解決に向けて社会への	将来の担い手として, 主体的に
儀、統計などの各種の基礎的資	関わり方を選択・判断したり、	問題解決しようとしたり、より
料を通して、情報を適切に調べ	考えたことや選択・判断したこ	よい社会を考え学習したことを
まとめている。	とを説明したり、それらを基に	社会生活に生かそうとしたりし
	議論したりしている。	ている。

※文部科学省(2020)「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨(小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部)」より抜粋

4.評価のポイント**

〇知識•技能

- ・自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや,自然災害から国土を保 全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解し ている。
- ・森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など 重要な役割を果たしていることを理解している。
- ・関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきた ことを理解しているとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大 切さを理解している。
- ・地図帳や各種の資料で調べ、まとめている。

〇思考•判断•表現

- ・災害の種類や発生の位置や時期,防災対策などに着目して,国土の自然災害の状況を捉 え,自然条件との関連を考え,表現している。
- ・森林資源の分布や働きなどに着目して,国土の環境を捉え,森林資源が果たす役割を考 え,表現している。
- ・公害の発生時期や経過,人々の協力や努力などに着目して,公害防止の取組を捉え,その働きを考え,表現している。

○主体的に学習に取り組む態度

・我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

※国立教育政策研究所 教育課程研究センター (2020)「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(社会)」を参考に作成。

5.川内川学習プログラムにおける単元の目標

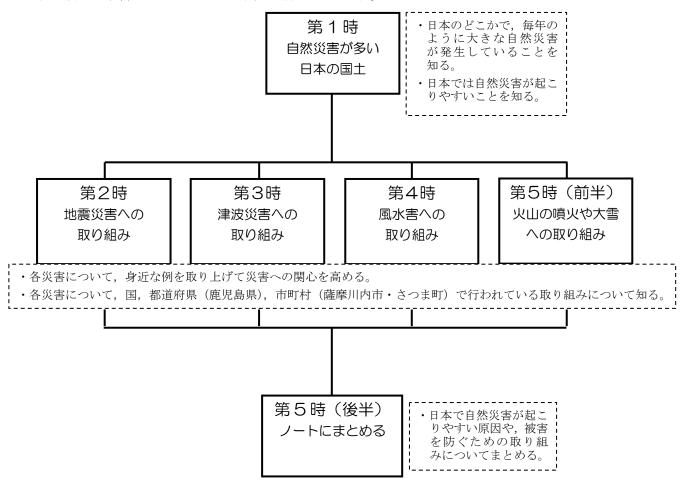
日本の風水害の発生状況や防災・減災の取り組みを学ぶにあたり、薩摩川内市・さつま町や 身近な川内川を事例として取り上げ、国(川内川河川事務所)や都道府県(鹿児島県),市町 村(薩摩川内市・さつま町)の取り組みについて調べることを通し、自然災害が起こりやすい 我が国では国民一人一人が防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

6.学習のねらい

平成18年7月洪水時の経験から,自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを考えさせる。

7.授業の構成

本小単元の学習プログラムは5時間で構成しています。



8.指導計画

○「自然災害を防ぐ」指導計画(全5時間)

	本時のめあて	学習活動	◆指導上の留意点	評価の観点と方法
つかむ	自然の日本 1時 るの合題し ままし 間まし おりま で災話 習りま という かんしょう かんしょう かんしょう かんしゅう はんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅん はんしゅう はんしゅん はん	① P.102~103 の日本の災害地図を見ながら、資料1~10 の災害が起きた場所を確認する。 ② 同時に、P.102 の災害年表を見ながら、資料1~10 の災害年表を見ながら、資料1~10 の災害が起きた場所を確認する。 ・地震や津波はどのようなところで起きるのかな。 ・高い土地や低い土地、あたたかい気候や寒い土地など、日本の様々な地形や気候の地域について学んできたから、自然災害も地形や気候と関係があると思う。 ・自然災害に対して、国や都道府県では、どのような防災の取り組みを行っているのかな。	◆ のせ し県なみののらにど災る~とう をのせ し県なみののらに をのまがいをえす 然形連。 然 国、のついのえすで自て料がる 発候え に道よりい相点よる 発候え に道よりい相点よる を とさ 対府う組る互かう しいりょう しいしい かんしい とびる とう をのせ しりが しいしい しい し	[思判表] ・災のを発生の発生ののでは、 ・災の位対では、 ・でででは、 ・でででである。 ・でででである。 ・でででである。 ・ででである。 ・ででである。
調べる	地震み 1時間 地方で 1時間 地方の組で 1時間 まで 1時の 2 被 2 が 3 が 3 が 5 が 5 が 5 が 5 が 5 が 5 が 5 が 5	① 日本で地震が多いわけを、本文や資料3「断層で起きる地震」から読み取り、話し合う。 ・複数のプレートの出会う場所にあるから。 ② 大地震に備えて、国ではどのような悪に備えをしているではとが、東急地震し合う。 ・気象庁では、緊急地震を報じ、などから、読み取っては、緊急地震を引いるようには、などがないでは、緊急地震を引います。 ・中央防災会議や国土交通の対策をおしています。 ・中央対策本が起きたとの対策をがしたもりします。 ・中央対策本が起きたとものが、たいでは、といるの対応を表がでは、といるの対応を表がでは、といるの対応を表ができたといる。	◆地く料る。 ◆地く料る。 **をいえ をいえ をいえ をいえ をいえ をいえ をいえ をいえ	[知技] ・必要な情報を集め、読み取り、計の自然災害の対策をの対策をの対策について理解している。

	本時のめあて	学習活動	◆指導上の留意点	評価の観点と方法
調べる	津波み 1時はとりらの組てより 1時はとりらの組でしまった。 1時はとりらの組でしまった。 1時はとりらの組でしまった。 1時はとりらの組でしまった。 1時はとりらの組でしまった。 1時はどこ、 すよみいう	① 日本では、	◆津では ・村っう取ららうがえ ・村っう取ららうがえ を変入上本被すっせ	[知技] ・必要な情報を集め、読み取り、説子の被害の被害をあるについて理解している。
	風水の取り 1時間 水う起をに取われる 水う起をに取われる はとこがするがあれている。	① 日本では風水害の被害が大きとなる理由について、資料1,2と本文から考え、話し合う。 ・ 短時間に急な大雨が降る。 ・ 短時間に急な大雨があふれる。 ② 風水害があらの被害を減らすたなり、水があらの被害を減らすらずなる。 ・ 砂筋がよいるのか、資している。 ・ 砂防ダムのかがあり、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	◆ 本書川れ見減り意抑。 にまいいえ味しそをうれまにまれいれるいでである。 でもにさもそん自うせい がな例にでるらたやきよ 「で定成とらちて使さたがな例にでるらたやきよ」では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	[知技] ・必った。 ・ジャンドル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

	本時のめあて	学習活動	◆指導上の留意点	評価の観点と方法
調べる	火山の噴火や大 雪への取り組み [1/2時間] 火山や大害をは よるすためらなった。 どの組みがらの り組みいるの しょうか。	① 資料1~4から,火山や大雪への取り組みについてわかったことを話し合う。 ・火山の噴火に備えて,気象庁では常に観測している火山がある。 ・大雪に備えて,雪崩を防ぐ柵などを道路の脇につくっている。 火山の噴火に備えて,気象庁では常に観測を行っている。また,大雪に備えて雪崩を防ぐ柵などを道路の脇につくっている。またの場にのくっている。		[知技] ・必要な情報を集め、情報を外のでである。 ・必のではいる。 ・のではいる。 ・のではいる。 ・のではいる。
まとめる	ノる	① 「まとって、	◆「こながったとめ」であったとめ、「しなかったする。 ◆教科書の)のと書きのである。 ◆教科書き、」でもいるは、は空のみかける。 ◆教にしてもいるは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	[知成 大学

※本指導計画は、平成 24,25 年度にさつま町立盈進小学校で作成された試行授業の指導計画案を元に「川内川水防災河川学習プログラム検討会」での議論を経て作成したものを、平成 29 年に告示された学習指導要領に沿って更新したものである。

9. 複式学級版学習プログラムについて

複式学級版学習プログラムは、H25年度までに開発した単式学級版学習プログラムをベースに、複式学級においても活用可能なプログラムの開発を行いました。

なお,本教材は,単式学級板学習プログラム同様,さつま町以外の小学校でも活用できるように開発しており,部分的に写真等をより身近な内容に差し替えることで,効果的な活用が可能です。

〇間接指導の設定 Point 1

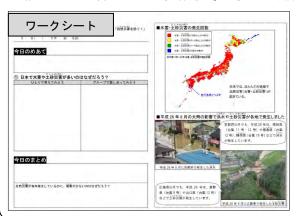
・複式学級の授業は、教師が一方の学年に指導する「直接指導」と、その間、もう一方の学年が児 童だけで学習を進めていく「間接指導」の組み合わせによる指導が基本となります。そのため、

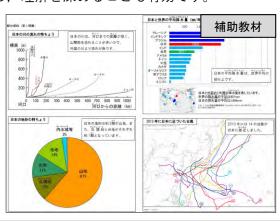
単式学級版学習プログラムを基本に、指導内容を「直接指導」と「間接指導」に配分しました。

- ・5,6学年の複式学級のうち5年生を対象学年とし、授業の導入時は、5年生への直接指導による「め <u>あて」の設定</u>を基本としました。「めあて」の設定後、教師のわたりによる間接指導を経て、終 末段階で直接指導による「まとめ」を行うことを基本的な流れとしました。
- ・終末において6年生が直接指導によるまとめを行うことを考慮し、5年生は、間接授業として、自 ら学び自ら考えるために、次の授業に向けた疑問や興味について発展的に考える時間とすること を基本としました。

○ワークシート、補助教材の充実 Point 2

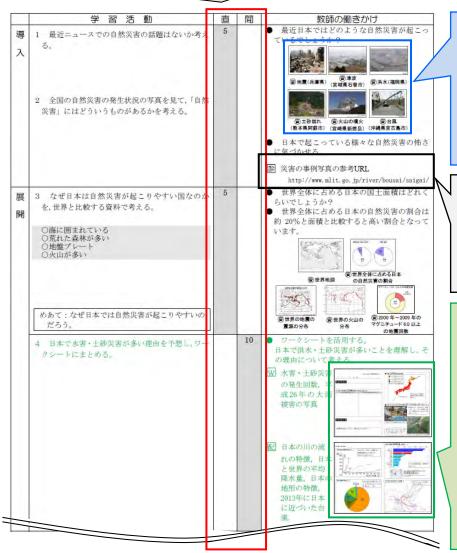
- ・新たに、間接指導時の児童による学習支援への活用を想定した<u>「ワークシート」の開発及び補助</u> 教材の追加を行いました。
- ・ワークシートは単式学級においても活用可能です。
- ・補助教材は、多様な教材を用意していますので、教師の判断で適宜選択して使用してください。
 - ・設定した「めあて」から「まとめ」に繋がる内容について、ワークシート中の写真等を参 考に、「自分で考える」、「みんなで話し合う」設問を用意しました。
 - ・記入した内容について、黒板等を使って発表し、理解を深めることも有効です。





○【プログラムの記載内容について】

- 複式学級版学習プログラムでは、直接指導と間接指導の時間の目安を示しています。
- 本書では、直接指導を【直】、間接指導を【間】と表記しています。
- ・時間配分や直接・間接の順番については、<mark>児童の理解度や同時進行する 6 年生の指導内容に応じて適宜調整をお願いします。</mark>



- ・本書では、板書用資料として用意した補助資料を

 のと表記しています。
- ・補助教材は、教師の判断で適宜選択して使用してください。
- その他の事例資料を 別途入手する場合に 参考となる URL を 記載しています。
- 必要に応じて参照・ 活用してください。
- 間接指導での学習支援として、ワークシート(別紙)を用意しています。
- 本書では,ワークシートに掲載する資料を 図,配布用に用意した資料を配と表記しています。
- ・配布資料は、教師の判断で適宜選択して使用してください。

10.各時間の内容

○「自然災害が多い日本の国土」(第1時)

(1)本時の位置づけ	5 年生社会「自然災害を防ぐ」(全 5 時間) の導入の時間として位置
	づける。
(2) 指導のポイント	・導入で自然災害(津波・地震・噴火・土砂崩れ・水害・台風)の写
	真を見せる。
	・日本は自然災害が多い国であるかを予想させ,実際に多いことを資
	料を通して確認させる。
	・なぜ世界に比べて自然災害が多いのか,予想させノートにまとめる。
	・自然災害が多い理由の因果関係を全体で確認する。
	・日本は自然災害が多い国であるのに,死者数が少ないのはなぜか考
	えさせ学習問題を立てさせる。
(3) 学習方法の工夫	・導入では、最近の新聞やニュース記事での自然災害を引用し、身近な
	問題として実感させる。
	・我が国の国土には自然災害が起こりやすいが,世界と比べて自然災
	害の死者数は少ないという点を気づかせ, 学習問題につなげさせ
	る。
(4) 本時のねらい	・日本で起こっている様々な自然災害を知る。
	・日本は自然災害が起こりやすい国であることを知る。
	・自然災害に対する取組みが行なわれていることにつなげる。
(5) 教科書•指導書	教科書:東京書籍「新しい社会 5 下」P.100~103
該当ページ	指導書:・東京書籍「新しい社会5 下」教師用指導書 指導編
	P. 100∼105
	・東京書籍「新しい社会5 下」教師用指導書 研究編
	P. 112

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①全国の自然災害の写真	板書	
②世界全体に占める日本の国土面積の割合 (世界地図)	板書	
③世界全体に示す日本の自然災害の発生回数 の割合 (グラフ)	板書	
④日本の国土の地形 (グラフ)	板書	
⑤「台風はいつごろ近づくの」	板書	・付属 DVD(教材データ集)に収録
⑥世界の地震の震源の分布	板書	
⑦世界の火山の分布	板書	
⑧日本と世界の川の勾配	板書	
⑨日本と世界の平均降水量	板書	
⑩世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合(グラフ)	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
1 日本と世界の降水量	PowerPoint	
2 平成18年洪水時のまちの高さと川の水面	PowerPoint	
3 日本と世界の川の勾配	PowerPoint	
4 日本の水害・土砂災害の発生回数	PowerPoint	付属 DVD(教材データ集)に収録
5 雨が多い季節	PowerPoint	
6 日本周辺のプレート	PowerPoint	
ワークシート1	PDF Word	
国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」 (台風はいつごろ近づくの) http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/	インターネッ トサイト	台風の経路
一般財団法人日本気象協会「日本地震マップ」- 地震発生状況を地図とアニメーションで表示-〈http://www.quakemap.info/〉	インターネッ トサイト	地震発生状況

(8)「学習の過程」(第1時)

【第1時のねらい】

- ・日本で起こっている様々な自然災害を知ることができる。
- ・日本は自然災害が起こりやすい国であることを知ることができる。
- ・自然災害に対する取組みが行われていることに繋げることができる。

	学 習 活 動	直	間	教師の働きかけ
導入	1 最近ニュースでの自然災害の話題はないか考える。 2 全国の自然災害の発生状況の写真を見て、「自然災害」にはどういうものがあるかを考える。 めあて:なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろう。	5		●最近日本ではどのような自然災害が起こっているでしょうか? ② 地震(兵庫県) (宮城県石巻市) ②洪水(福岡県) ② 生砂崩れ (宮城県石巻市) ② (宮城県石巻市) ② (宮城県石巻市) ② (宮城県石巻市) ② (京城県石巻市) ② (京城県石巻市) ② (京城県石巻市) ② (京城県宮古島市) ② 上砂崩れ (宮崎県新燃岳) (沖縄県宮古島市) ② 日本で起こっている様々な自然災害の怖さに気づかせる。 ② 災害の事例写真の参考URL
展開	3 なぜ日本は自然災害が起こりやすい国なのかを,世界と比較する資料で考える。 ○海に囲まれている ○山が多い ○雨が多い ○荒れた森林が多い ○台風の通り道 ○地盤プレート ○川が急流 ○山が多いから ○火山が多い	5		 http://www.mlit.go.jp/river/bousai/saigai/ ●世界全体に占める日本の国土面積はどれくらいでしょうか? ●世界全体に占める日本の自然災害の割合は約20%と面積と比較すると高い割合となっています。 ②世界金体に占める日本の自然災害の割合を変更の割合を変更の割合を変更の割合を変更の割合を変更の対象をある。 ②世界の地震の震源の分布 ②世界の火山のマグニチュード 6.0 以上の地震回数
	4 日本で水害・土砂災害が多い理由を予想し、ワークシートにまとめる。		10	●ワークシートを活用する。 日本で洪水・土砂災害が多いことを理解し、その理由について考える。 図 水害・土砂災害の発生回数、平成26年の大雨被害の写真 配 日本の川の流れの特徴、日本と世界の平均降水量、日本の地形の特徴、2013年に日本に近づいた台風

T: 教師の発問

C:こどもの反応(記載内容は,試行授業においてワークシートに記載された

回答を参考にしています。)

教師の発問(こどもの反応)

T:最近日本ではどのような自然災害が起こっているでしょうか。

(C:地震)

T: そうですね。それでは地震以外にどんな自然災害があるでしょうか。

(C:津波,洪水,土砂崩れ…)

児童の答えに合わせて黒板に全国の自然災害の写真を貼っていく。

T:日本には自然災害がこんなにたくさんあります。今日から私たちは何について勉強していくのでしょうか。

(C:自然災害。)

T: 今日は,これからの授業で自然災害の何について勉強していくか学習問題をつくりましょう。

T: 今日の授業のめあては「なぜ日本では自然災害が起こりやすいのだろう。」です。

資料の「世界地図」を黒板に貼る。

T:世界全体に占める日本の国土の割合はどれくらいでしょうか。 (C:0.1%,0.2%…)

T:世界全体に占める日本の国土の割合はわずか0.28%です。

資料「世界全体に占める日本の自然災害の割合」を黒板に貼る。

T:でも,世界全体に占める日本の自然災害の割合は、台風・洪水等で8%、地震・津波は、世界の約19%を占めています。 資料「世界の地震の震源の分布」、「世界の火山の分布」、「地震回数」を黒板に貼る。

T:日本は、周りを海に囲まれており、たくさんの震源や火山が分布していることから、地震が多く発生しています。 先程のグラフのとおり、日本では地震だけでなく、水害も多く発生しています。 それでは、なぜ日本では洪水や土砂災害が多いのか、資料を見ながら考えてみましょう。

「ワークシート」と「配付資料」を配布する。

T: 資料を見ながら、日本で水害や土砂災害が多い理由を考えてみましょう。

考える時は、「日本は○○だから○○が多い」というふうに考えてみましょう。

	学 習 活 動	直	間	教師の働きかけ
展開	5まとめた内容について、グループで話し合う。		10	3,7,0,10,7,10,10
	6 ワークシートにまとめた内容を発表する○山が多い○台風の通り道○川が急流7 発表した予想について,資料で確認する。	5		●日本で様々な自然災害が発生する理由を気づかせる。●様々な自然災害と児童が考えていた理由を矢印で関連付けて,板書を構造化していく。
終末	 8日本で自然災害が多い理由をまとめる。 まとめ:日本は、雨が多い気候や山が多く川が急流となる地形、また、海に囲まれていることや火山が多いことなどのさまざまな理由により自然災害が起こりやすい。 ○日本は自然災害が多い国であるのにもかかわら	5		●日本には、自然災害が起こりやすい様々な理由があるのですね。 ●では、これだけ自然災害が起こっているということは、災害で亡くなっている人の数も多いのでしょうか。 「●世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合(グラフ) ●日本は自然災害が多い国であるにもかかわらず
-	ずなぜ亡くなった人の数が少ないのだろう。 9 「誰がどんな備えをしているのだろう」という学習問題を立てる。		5	亡くなった人の数が少ない理由を考えさせる。 ●自然災害に対する備えが何かありそうですね。 ●ワークシートで、災害の発生に比較して被害は少ないことの理由を考える。
		20	25	
		4	.5	

教師の発問(こどもの反応)

T: グループで話し合ってみましょう。

T: それでは、日本で水害や土砂災害が多い理由を発表しましょう。

(C:台風がたくさん来るから、台風の通り道になっているから、川が多いから、川の流れが急だから、日本には梅雨があるから、降水量が多いから、大雨が降って土が軟らかくなるから、海に囲まれているから、火山が多いから、地震が多いから、日本の周りにプレートの境目が多いから、…)

※試行授業では、地震系に関する回答も多く見られました。土砂災害は、地震が引き金となって発生することもあります。

資料「配付資料中の図表」を黒板に貼り、地震・津波も含めた自然災害と、その理由を矢印で関連づける。

T:日本には、自然災害が起こりやすいさまざまな理由があるのですね。

T: 今日のまとめです。「日本は、雨が多い気候や山が多く川が急流となる地形、また、海に囲まれていることや火山が多いことなどのさまざまな理由により自然災害が起こりやすい。」

T:では、これだけ自然災害が起こっているということは、災害で亡くなっている人の数も多いのでしょうか。 資料「世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の数の割合」を黒板に貼る。

T:日本の占める割合は 1.5%です。日本では自然災害が多いのですが,実は亡くなっている人の数は少ないのです。なぜなのでしょうか。

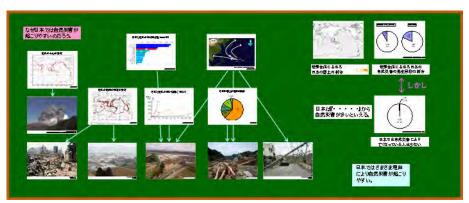
T:自分の考えたことをワークシートにまとめさせる。

(C:いろいろな施設が整備されたり、消防団などがあるから、対策がたくさんあるから、避難所などがたくさんあるから、避難訓練が行われているから、災害が起きたときに素早く避難しているから、…)

T:自然災害に対する備えが何かありそうですね。

それでは、次の時間からはそのことについて調べていきます。

(9) 板書計画



○「地震災害への取り組み」(第2時)

(1)本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」(全5時間)の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・地震発生が起きるしくみについて資料から考えさせる。
	・大きな地震に備えて、国や県(鹿児島県)、市町村(薩摩川内市・さつま
	町)がどのような対策を行っているのかを調べるように助言する。
(3) 学習方法の工夫	・日本で地震が起こりやすいわけを、地震が起きるしくみについての資料
	から読み取って話し合わせる。
	・大地震に備えて、国や県(鹿児島県)、市町村(薩摩川内市・さつま町)
	はどのような対策や備えをしているか、資料から読み取って話し合わせ
	る。
(4) 本時のねらい	・地震が発生する場所や防災対策などについて、資料などから必要な情報
	を集め、読み取り、日本における地震災害について理解させる。
	・地震が起こるメカニズムや、地震災害から国土を保全し国民生活を守る
	ために国や県 (鹿児島県), 市町村 (薩摩川内市・さつま町) などが様々 な対策や事業を進めていることを理解させる。
(5) 教科書・指導書	教科書:・東京書籍「新しい社会 5 下」P.104~105
該当ページ	指導書:・東京書籍「新しい社会5 下」教師用指導書 指導編
	P. 104∼105
	・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 研究編
	P. 112

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①熊本地震	板書	
②鹿児島県北西部地震	板書	
③日本周辺のプレート	板書	
④日本/九州の断層マップ	板書	
⑤地震ゆれやすさマップ	板書	付属 DVD(教材データ集)に収録
⑥緊急地震速報	板書	
⑦TEC-FORCE の活動	板書	
⑧リエゾンの活動	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考		
①南海トラフ地震	PowerPoint	付属 DVD (教材データ集) に収録		

(8)「学習の過程」(第2時)

【第2時のねらい】

地震が起こる場所や地震の被害を減らす取り組みについて調べ、日本の国土は地震が起こりやすい場所にあり国や都道府県が対策していることを理解する。

	学 習 活 動	直	間	教師の働きかけ
導入	1 前時のふりかえり 2 地震災害が起こりやすい場所はどこか考える 3 地震災害による被害を防ぐための取り組みがされていることに気づく めあて:地震災害を防ぐために,どんな取り組みが行われているのだろうか。	10	121	●日本では自然災害が多いのに死者が少ない理由を,東日本大震災で死者がでなかった「岩手県普代村」を例に考えさせる。 ②東日本大震災の 津波の被害の写真 ②普代村の被害の写真
展開	4 地震のメカニズムを学習し、日本は地震が起きやすい国であり、備えが必要であることを理解する。 5 国や県、薩摩川内市・さつま町やその他の市が行っている地震災害の被害を防ぐための取組みを調べる。	5	10	 ●地震が起こるしくみを理解させ、日本中どこでも地震への備えが必要であることに気づかせる。 ●地震災害から命を守るためにどのような取り組みがされているか調べてみましょう。 ●配布資料を活用する。 配 地震災害を防ぐ様々な取り組みの写真
	6 調べた結果を発表し、取り組みの機能や仕組みを確認し、分類する。	10		●国土交通省や薩摩川内市・さつま町が行っていることを捉えさせる。

T: 教師の発問

C:こどもの反応(記載内容は,試行授業においてワークシートに記載された 回答を参考にしています。)

教師の発問(こどもの反応)

T:前回の授業では、日本では様々な自然災害が全国各地で毎年のように起こっていることを学習しました。 これから自然災害の種類ごとに学習していきます。まずは地震です。知っている地震災害はありますか?

(C:熊本,東日本,阪神淡路など)

熊本地震【教材①】、鹿児島県北西部地震を黒板にはる

T:地震はどんなところで起こるのでしょうか?

(C: どこでも起こる, プレート・断層)

T:前回の授業で,日本では自然災害が多いけれども,亡くなっている人の数は少ないということを学習しました。 地震災害から身を守るための取り組みがありそうですね。

地震のメカニズムについて確認する。日本周辺のプレート【教材③】,日本/九州の断層マップを黒板にはる。

T:日本のどこでも地震災害が起きる可能性があります (プレート・断層)。最近では、熊本県で大きな地震がありました。

「配付資料」を配布する。

T: 地震災害から命を守るために、どのような取り組みがされているのでしょうか?

T: 災害が発生してしまった場合は、国で「災害対策本部」がつくられ、被災地の自治体に「リエゾン」を派遣して復旧の手助けをしたり、被災地に直接「TEC-FORCE」を派遣して復旧作業にあたったり、状況調査をしたりします。

T: 鹿児島県で地震が起こってしまったときのために、みなさんが自分や家族を守るためにできることはないでしょうか? (机の下に隠れる、避難する、家具が倒れないようにしておく、地震情報をチェックしておくなど)

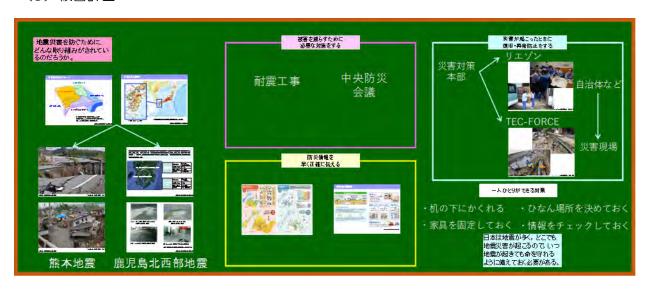
	学 習 活 動	直	間	教師の働きかけ
展開	7 災害が起こりそうなときに,私たちに届く情報 はどのように伝えられているのかを考える。		5	
終末	 ○地震はプレートや断層によっておこるので、プレートの境目に位置する日本では地震が多い。 ○国や都道府県(鹿児島県)、市町村(薩摩川内市・さつま町)では、地震災害を防ぐための取り組みをしている。 ○地震の情報に常に注意して、いつでも身を守れるようにしておく必要がある。 	5	15	●情報をもとに、一人ひとりが備えをしておくことが重要であることに気づかせる。
		30	15	
		4	5	

教師の発問(こどもの反応)

T:国や県,市町村では、地震の被害を減らすための取り組みをしているのですね。また、地震が発生しそうなときには、みなさんに早く知らせるための仕組みがあります。気象庁も、情報を発信しています。

T:もし地震が発生してしまった時には、国や県、市町村が出した情報をもとに一人ひとりが正しい行動をとって、自分や家族の命を守るしかありません。きちんとした備えが必要ですね。

(9) 板書計画



○「津波災害への取り組み」(第3時)

(1)本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」(全5時間)の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・津波の被害の広がりを、資料から読み取らせる。
	・歴史的な見方・考え方として、昔から津波からの被害を減らそうとする
	人の努力があったことを考えさせる。
(3) 学習方法の工夫	・日本で津波が起こるわけを、資料から読み取って話し合わせる。
	・大津波からの被害を減らすために、国や県(鹿児島県),市町村(薩摩川
	内市・さつま町)はどのような対策や備えをしているか、資料から読み
	取って話し合わせる。
(4) 本時のねらい	・津波が発生する場所や防災対策などについて、資料などから必要な情報
	を集め、読み取り、日本における津波災害について理解させる。
	・津波が起こるメカニズムや、津波災害から国土を保全し国民生活を守る
	ために国や県(鹿児島県),市町村(薩摩川内市・さつま町)などが様々
	な対策や事業を進めていることを理解させる。
(5) 教科書 · 指導書	教科書:・東京書籍「新しい社会 5 下」P.106~107
該当ページ	指導書:・東京書籍「新しい社会5 下」教師用指導書 指導編
37.—	P. 106∼107
	・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 研究編
	P. 113

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①東日本大震災の津波被害の写真	板書	
②津波発生のしくみ	板書	
③岩手県普代村の水門の写真	視聴	
④岩手県普代村の防潮堤の写真	配布	付属 DVD(教材データ集)に収録
⑤津波避難タワー	板書	
⑥津波ハザードマップ	板書	
⑦津波警報	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
①日本経済新聞電子版「岩手県普代村は 浸水被害ゼロ,水門が効果を発揮 (2011/4/1 7:00)」 	インターネット サイト	岩手県普代村の新聞記事
②2007年(平成19年)8月16日ペルー 地震で発生した津波の伝わり方 〈http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/ data/tsunami/peru_20070816.gif〉	インターネット サイト	付属 DVD(教材データ集)に収録 気象庁 HP
ワークシート2	PDF Word	付属 DVD(教材データ集)に収録

(8)「学習の過程」(第3時)

【第3時のねらい】

- ・津波が発生する場所や防災対策などについて、資料などから必要な情報を集め、読み取り、日本における津波災害について理解させる。
- ・津波が起こるメカニズムや、津波災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県(鹿児島県)、市町村(薩摩川内市・さつま町)などが様々な対策や事業を進めていることを理解させる。

	学 翌 活 動	直	問	教師の働きかけ
導入	学習活動 1前時のふりかえり 2津波が起こるのはどんなところか考える めあて:津波災害を防ぐために,どんな取り組みが行われているのだろうか。	直 10	間	教師の働きかけ ●海の近くでは津波の被害を受ける可能性があることに気づかせる。◎東日本大震災の津波の被害の写真
展開	3津波のメカニズムを学習し、海沿いの地域では津 波に対する備えが必要であることを理解する。	5		●津波が起こるしくみを理解させ、海沿いの地域では津波への備えが必要であることを気づかせる。
	4国や県、薩摩川内市・さつま町やその他の市が行っている津波災害の被害を防ぐための取組みを調べる。		10	■国土交通省や薩摩川内市・さつま町が行っていることを捉えさせる。
	5調べた結果を発表し、取り組みの機能や仕組みを確認し、分類する。		10	●普代村でも同じように災害の被害を防ぐための 取り組みを行っていたことを捉えさせる
	6 災害が起こりそうなときに、私たちに届く情報は どのように伝えられているのかを考える。		5	
まとめ	○津波は海底で起きた地震によって起こるので、海沿いの地域は被害を受ける可能性がある。○国や都道府県(鹿児島県),市町村(薩摩川内市・さつま町)では、津波被害を防ぐための取り組みをしている。○津波の情報に注意して、身を守れるようにして	5		●情報をもとに、一人ひとりが備えをしておくことが重要であることに気づかせる。
-	おく必要がある。	20	25	
			<u>2</u> 5 5	
		4	U	

T: 教師の発問

C:こどもの反応(記載内容は,試行授業においてワークシートに記載された 回答を参考にしています。)

教師の発問(こどもの反応)

T:前回の授業では、地震が起きるしくみと、地震災害の被害を防ぐための取り組みについて学習しました。 今回は津波の災害について学習します。知っている津波災害はありますか?

(C:東日本大震災)

T: 津波はどんなところで起こるのでしょうか?

(C:海の近く,震源地の近くなど)

東日本大震災の津波の被害の写真を見せる。

- T: 東日本大震災では, 15,800 人以上の方が亡くなったそうです。岩手県にある普代村という小さな村ですが,亡くなった人は 0 人だそうです。なぜでしょうか。
- (C: だれかが何かをした, 避難するように放送した)
- T: なにか取り組みがありそうですね

津波発生のしくみを黒板にはる。

T:地震の後には津波が来る可能性があります。海の近くの地域では、津波への備えが必要ですね。

<参考>2007年8月16日ペルー地震で発生した津波の伝わり方【参考②】を見せる。

T: 津波は地震が起きた場所から輪のように広がり、津波のエネルギーが大きい程遠くまで届きます。過去には、ほとんど地球の裏側にあるペルーで起きた津波が日本まで届いたこともあります。

「ワークシート」と「配付資料」を配布する。

- T:国や県、市町村では、津波の被害を減らすための取り組みをしているのですね。津波が発生しそうなときには、みなさんに早く知らせるための仕組みがあります。気象庁も、情報を発信しています。津波は地震が原因で発生するので、地震があった後には特に津波情報に注意する必要がありそうですね。
- T:もし津波が発生してしまった時には、国や県、市町村が出した情報をもとに一人ひとりが正しい行動をとって、自分や家族の命を守るしかありません。きちんとした備えが必要ですね。

(9) 板書計画



○「風水害への取り組み」(第4時)

(1)本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」(全5時間)の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・砂防ダムや、放水路など、被害を減らすための取り組みや対策の意味を
	きちんと押さえるようにする。
	・ハザードマップについても、その意味をきちんと話し合って、自分がそ
	れを使うことを想定させるようにする。
(3) 学習方法の工夫	・日本で風水害の被害が大きくなる理由について、資料から考え、話し合
	わせる。
	・風水害からの被害を減らすために、国や都道府県(鹿児島県)、市町村(薩
	摩川内市・さつま町)ではどのような取り組みをしているのか, H18 年
	の川内川での洪水を例に挙げながら、資料からわかったことを話し合わ
	せる。
(4) 本時のねらい	・風水害が発生する場所や防災対策などについて、資料などから必要な情
	報を集め、読み取り、日本における風水害について理解させる。
	・風水害から国土を保全し国民生活を守るために国や県(鹿児島県),市町
	村(薩摩川内市・さつま町)などが様々な対策や事業を進めていること
	を理解させる。
(5) 教科書・指導書	教科書:・東京書籍「新しい社会 5 下」P. 108~109
 該当ページ	指導書:・東京書籍「新しい社会5 下」教師用指導書 指導編
	P. 108~109
	・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 研究編
	P. 113

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考	
①薩摩川内市・さつま町の過去の洪水被害の写真	板書		
②平成 18 年水害写真	板書		
③薩摩川内市での風水害を防ぐ取り組み (写真・イラスト)	板書		
④鶴田ダムの治水機能	視聴		
⑤防災ステーション	板書		
⑥平成 18 年洪水の体験談 VTR	板書	付属 DVD(教材データ集)に収録	
⑦平成 18 年洪水時の避難者・救助者の声 (ワークシート)	板書		
⑧避難所の写真(盈進小学校)	板書		
⑨防災マップ	I C T 板書		
⑩土砂災害情報	板書		
⑪地デジデータ放送	配布		
⑫川内川河川事務所「早よ見やん川内川」 〈http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/bousai/〉	配布	付属 DVD・インターネット	
③気象庁ナウキャスト	板書	・付属 DVD(教材データ集)に収録	
④警戒レベル	板書		

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
①台風(宮古島)	PowerPoint	
②土石流 (阿蘇)	PowerPoint	
③水害(福岡県)	PowerPoint	
④水害 (熊本県)	PowerPoint	
⑤集中豪雨(1時間降水量80ミリ以上)が 増加しているようす(グラフ)	PowerPoint	
⑥がけ崩れ工事	PowerPoint	
⑦水位レベル表示 (写真)	PowerPoint	
⑧監視カメラ(写真)	PowerPoint	
⑨防災無線(イラスト)	PowerPoint	
ワークシート2	PDF Word	
ワークシート3	PDF Word	

(8)「学習の過程」(第4時)

【第4時のねらい】

- ・風水害が発生する場所や防災対策などについて、資料などから必要な情報を集め、読み取り、日本における風水害について理解させる。
- ・風水害から国土を保全し国民生活を守るために国や県 (鹿児島県), 市町村 (薩摩川内市・さつま町) などが様々な対策や事業を進めていることを理解させる。
- ・災害時に備えてできることを整理して発表することができる。

	W 77 V TL	-		**** *** *** ***
ļ	学習活動	直	間	教師の働きかけ
導入	 1 前時のふりかえり 2 風水害が起こるのはどんなところか考える ○薩摩川内市・さつま町でも、過去に洪水被害が起こっていることを知る めあて:風水害を防ぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか。 	5		 ●川の近くや山の近くでは風水害が起こる可能性があることに気付かせる。 ③昭和47年の川内川での洪水被害と堤防整備の写真 ③平成18年水害写真
展開	3 平成 18 年洪水の体験談 VTR を見て,逃げ遅れないためにはどのようなことをしなければならないかを考える。 4 ワークシートを見て,さつま町で多くの人々を救助しなければならなくなった理由を考える。 ○ 危機感がなかった。 ○ 1人で逃げずに待っていた。 ○ 呼びかけに応じなかった。 ○ 見回りが足りなかった。	5		平成 18 年洪水の体験談 VTR ※洪水の体験談は VTR の 3 分 11 秒から 始まります。 ● 活用できる防災情報を知り,避難に備えることの大切さに気づかせる。 ② 水位レベル表示 ② 「早よ見やん川内川」 ② 防災無線 ② 地デジデータ放送 ② 監視カメラ ハザードマップをみてみよう
	5 国や県、薩摩川内市・さつま町やその他の市町村が行っている風水害を防ぐための取組みを調べる。○どのように防災情報を活用すればよいのだろうか。		10	 ワークシート・配付資料を活用する。 自宅、学校の下校時、よく遊んでいる公園等、様々な場所にいることを想定させ、その際の避難場所を確認させる。 W 配 防災マップ・土砂災害 ハザードマップ

黒:直接指導で実施 緑:間接指導で実施

T: 教師の発問

C:こどもの反応(記載内容は,試行授業においてワークシートに記載された 回答を参考にしています。)

教師の発問(こどもの反応)

T:前回の授業では、津波災害を防ぐための取り組みについて学習しました。今回は風水害について学習します。知っている 風水害はありますか?

(C:R2球磨川豪雨, 西日本豪雨, 九州北部豪雨など)

T:風水害はどんなところで起こるのでしょうか?

(C:川の近く,土地が低いところ,山の近くなど)

薩摩川内市・さつま町での洪水被害の写真を見せる。平成18年水害写真を見せる。

T: みなさんが住んでいる地域も,近くに川内川が流れていますね。実際に,過去に大きな洪水が何度も起こっています。

T: 風水害から身を守るために、どのような取り組みがされているのでしょうか?

(C:砂防ダム,放水路,防災ステーション,ダムをつくる,防災マップなど)

教材から, 児童の発言に合わせて分類しつつ黒板にはる。

T:薩摩川内市・さつま町でも、洪水が起きるたびに様々な取り組みをして、また洪水が起きないようにしてきました。 それでも、完全に洪水を防ぐことは難しいのです。

平成 18 年洪水の体験談 VTR 【教材⑥】を見せる。

T:お話をしてくださった方たちはなぜ逃げ遅れてしまったのでしょうか。

(C: 今までの経験上油断をしていたから, 災害情報を知らなかったから…)

「ワークシート」と「配付資料」を配布する。

T:もしまた鹿児島県で洪水が起こってしまったときのために、皆さんが自分や家族のためにできることはないでしょうか? (C:情報をチェックする,避難訓練をしておく,防災マップを見ておくなど)

●国土交通省や薩摩川内市・さつま町が行っていることを捉えさせる。

	学 習 活 動	直	間	教師の働きかけ
展開	6 防災マップで災害時に自分はどこへ避難すればよいかを確認する。	5		※ 上段のハザードマップは、ある条件で想定されたものであることを伝え、自分の地域が浸水しないからといって安心しないこと、想定にとらわれないことの大切さを伝える ■ 本順地区では、洪水ハザードマップをベースに、自分たちで現地調査を行い、問題点や避難経路を整理した「マイ洪水ハザードマップ」を作成する先進的な取り組みもあることを伝える。 ● 遊覧以教室 24 みんなでパチードマップを作ろう 企作方う 企作方う
終末	7 自然災害に備えて、私たちにできることを総括する。 ○川の近くでは洪水が起こる可能性があり、薩摩川内市・さつま町でも洪水が起こっている。 ○国や都道府県(鹿児島県)、市町村(薩摩川内市・さつま町)では、洪水を防ぐための取り組みをしている。 ○事前の準備と情報収集をしなければ、逃げ遅れることもある。 まとめ:自然災害の危険から身を守るためには、日ごろから備えておくことが大切です。また、ひなん勧告などが発表されたら早くひなんすることが大切です。	10	00	T:国や県、市町村では、洪水の被害を減らすための取り組みをしているのですね。また、洪水が発生しそうなときには、みなさんに早く知らせるための仕組みがあります。気象庁も、情報を発信しています。 T:もし洪水が発生してしまった時にどのような行動をとればよいか、事前に考えておくことで、逃げ遅れる危険を減らすことができます。情報をもとに一人ひとりが正しい行動をとって、自分や家族の命を守るしかありません。きちんとした備えが必要ですね。
		25	20	
		4	5	

黒:直接指導で実施 緑:間接指導で実施

教師の発問(こどもの反応)

9.	
T:おうちの方と防災マップを確認して,避	難場所や安全な避難経路を家族で話し合ってみましょう。
T:国や県、市町村では、洪水の被害を減らすた なさんに早く知らせるための仕組みがありま	ための取り組みをしているのですね。また,洪水が発生しそうなときには,み ます。気象庁も,情報を発信しています。
T:もし洪水が発生してしまった時にどのようっとができます。情報をもとに一人ひとりがこえが必要ですね。	な行動をとればよいか,事前に考えておくことで,逃げ遅れる危険を減らすこ 正しい行動をとって,自分や家族の命を守るしかありません。きちんとした備

(9) 板書計画



○「火山の噴火や大雪への取り組み/ノートにまとめる」(第5時)

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害を防ぐ」(全5時間)の展開・まとめの時間として位
	置づける。
(2) 指導のポイント	・「ことば」を生かしながら、調べてわかったことをノートにまとめるよう
	にする。
(3) 学習方法の工夫	・資料から、火山や大雪への取り組みについて分かったことを話し合わせ
	る。
	・「まとめる」ページの課題をノートに写して、各災害について今までの授
	業で学んだことから考えて書かせる。
(4) 本時のねらい	・火山や大雪災害が発生する場所や防災対策などについて、資料などから
	必要な情報を集め、読み取り、日本における火山・大雪災害について理
	解させる。
	・火山・大雪災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県(鹿児島
	県), 市町村 (薩摩川内市・さつま町) などが様々な対策や事業を進めて
	いることを理解させる。
	・調べたことをまとめ、自然災害と国土の自然条件との関連や、国や県な
	どの対策や事業について理解させる。
	・我が国で発生するさまざまな自然災害と国土の自然条件を関連付けて、
	国や県の防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、適切に表現させ
	る。
(5) 教科書•指導書	教科書:・東京書籍「新しい社会 5 下」P.110~111
該当ページ	指導書:・東京書籍「新しい社会5 下」教師用指導書 指導編
	P. 110∼111
	・東京書籍「新しい社会 5 下」教師用指導書 研究編
	P. 113

(6) 必要なもの

(5) 122(6) 6 1	Г	
教材名	使用方法	備考
①噴火被害の写真	板書	
②世界の火山の分布	板書	
③日本の活火山	板書	
④噴火警戒レベル	板書	
⑤自然災害に備えて私たちにできること (ワークシート)	配布	付属 DVD(教材データ集)に収録
⑥薩摩川内市総合防災訓練の写真	板書	
⑦非常用持出袋 (写真)	板書	
⑧町内一斉防災訓練(さつま町)の写真	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
①非常時持出品カード	PowerPoint	
②ルートパズル	PowerPoint	
③川内川防災教室	PDF	付属 DVD(教材データ集)に収録
ワークシート4	PDF • Word	

(9)「学習の過程」(第5時)

【第5時のねらい】

- ・火山や大雪災害が発生する場所や防災対策などについて, 資料などから必要な情報を集め, 読み取り, 日本における火山・大雪災害について理解させる。
- ・火山・大雪災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県 (鹿児島県), 市町村 (薩摩川内市・ さつま町) などが様々な対策や事業を進めていることを理解させる。
- ・調べたことをまとめ、自然災害と国土の自然条件との関連や、国や県などの対策や事業について理解 させる。
- ・我が国で発生するさまざまな自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や県の防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、適切に表現させる。

	学 習 活 動	直	間	教師の働きかけ
導入	チョル 動 1 前時のふりかえり 2 火山・大雪災害が起こるのはどんなところか考える	5		●火山の近くでは噴火災害が起こること、気温が低い地域では大雪災害が起こることに気づかせる。 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
展開	3 国や県、薩摩川内市・さつま町やその他の市が 行っている噴火・大雪による災害を防ぐための取 組みを調べる。		10	● ワークシート・配付資料を活用する。
	4 調べた結果を発表し、取り組みの機能や仕組みを確認し、分類する。	5		

T: 教師の発問

C:こどもの反応(記載内容は,試行授業においてワークシートに記載された 回答を参考にしています。)

教師の発問(こどもの反応)

T:前回の授業では、日本で起こる風水害と、被害を防ぐための取り組みについて学習しました。 今回は火山と大雪災害について学習します。知っている災害はありますか?

(C: <火山>桜島, 口永良部島, 硫黄山, <大雪>寒いところなど)

噴火被害の写真を黒板にはる。

T: 大雪災害は寒い地域で起こりそうですね。火山による災害は、火山があるところで起こりますね。

世界の火山の分布、日本の活火山を黒板にはる。

T:噴火する火山を,「活火山」と呼んでいます。日本にはたくさんの火山があります。みなさんの身近にもありますね。火山の大噴火はめったに起こりませんが,もし起こってしまったら大変な災害になります。火山災害から身を守るために,どんな取り組みをしているでしょうか。

T:火山や大雪災害を防ぐために、どのような取り組みがされているでしょうか?

(C:火山を監視する,なだれを防ぐ柵をつけるなど)

噴火警戒レベル【教材④】を見せる

T: 活火山の中でも活動が活発な火山は、気象庁が常に監視しておいて、噴火が起こりそうかどうかを調べています。 もし噴火しそうな状態になったら、登山を禁止したり、周りの住民を避難させたりします。

	学 習 活 動	直	間	教師の働きかけ
展開	5 これまで学習した災害ごとに、国や都道府県、市町村が行っている防災のための取り組みをまとめる。		10	●これまでの学習をふりかえらせ,防災・減災に必要なことを考えさせる。
	6 グループで災害に備えてできることについて話し合い、「災害に備えて私たちにできること」と題したリストを模造紙などに作成し、発表する。	10		
終末	7薩摩川内市・さつま町でも平成18年の水害の教訓を生かし,避難訓練など,災害から身を守るための取り組みが行われている。	5		●国や都道府県、市町村の取り組みに加えて、一人ひとりの備えが重要であることに気づかせる。
		25	20	
		4	5	

教師の発問(こどもの反応)

- T: これまで地震, 津波, 風水害, 火山, 大雪の5つの自然災害について学習してきました。 国や鹿児島県, 薩摩川内市・さつま町では, 自然災害を防ぐためにさまざまな取り組みをしていましたね。 災害の種類ごとに, ノートにまとめてみましょう。
- T: それでも、自然災害は必ず起こります。命を守るためには、どうしたらいいのでしょうか? 自然災害に備えて私たちにできること (ワークシート) を配る。
- T: 今からグループで, ワークシートを見たり, これまで学習してきたことを思い出して自然災害に備えて私たちにできることを考えてみてください。

模造紙などの紙にリスト化させ、発表させる。洪水が起こった場合の避難や防災マップについて、家の人と話し合ってきた結 果を発表させる。

薩摩川内市総合防災訓練の写真、非常持出袋、さつま町避難訓練の写真を見せる。

- T: これは非常持出袋といって、いざというときにすぐに持ち出せるように、避難に必要なものを入れておく袋です。 みなさんも、いざというときに備えて非常持出袋を準備しておきましょう。
- T: 国や鹿児島県,薩摩川内市・さつま町の取り組みに加えて,みなさん一人ひとりが防災への知識と心構えを持つことで,自然災害の被害から命を守ることができるのですね。





<出典一覧>

○第1時

	○地震(兵庫県)	(財)消防科学総合センター「災害写真データベース」 〈http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do〉	
全国の自然災害の	○津波(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供	
写真	○噴火(宮崎県新燃岳)	宮崎県・鹿児島県 霧島山(新燃岳)噴火に関する政府支援チーム (2011)「霧島山(新燃岳)噴火時に噴石等から身を守るために」	
	〇台風(沖縄県宮古島市)	宮古島地方気象台提供	
世界全体に占める日本の国土面積の割合(世界地図)		樹商事株式会社「世界地図」〈sekaichizu.jp〉	
世界全体に示す日本	の自然災害の発生回数の割合	内閣府「平成 25 年版防災白書」(付属資料 35)	
(グラフ)		http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm	
日本の国土の地形(グラフ)		総務省統計局「日本統計年鑑」	
日本の国工の地が(ソファ)		http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index1.htm	
「台風はいつごろ近づくの」		国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」	
		http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/	
世界の地震の震源の分布			
区分1·0/2/区区0/2/区(M·0/) [2]		内閣府「平成 22 年版防災白書」	
世界の火山の分布		<pre><http: h22="" hakusho="" index.htm="" kaigirep="" www.bousai.go.jp=""></http:></pre>	
世界全体に占める日本の自然災害で亡くなった人の割		内閣府「平成 25 年版防災白書」(付属資料 8)	
合(グラフ)		http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm	

○第2時

日本/九州の断層マップ	国立研究開発法人産業技術総合研究所「活断層データベース」
	https://gbank.gsj.jp/activefault/index_gmap.html
	気象庁「緊急地震速報~まわりの人に声をかけながら あわてず,まず身の
緊急地震速報	安全を!!~」
	http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/eew/index.html
南海トラフ地震/地震が起こるメカニズム	政府 地震調査研究推進本部
	https://www.jishin.go.jp/resource/pamphret/
南海トラフ地震	気象庁「南海トラフ ーその時の備えー」
	http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nteq/index.html

○第3時

東日本大震災の津波被害の写真(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
岩手県普代村の被害状況の写真(岩手県普代村)	普代村地域振興室提供
津波警報	気象庁「津波警報・注意報, 津波情報, 津波予報について」 〈https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html〉
2007 年(平成 19 年)8 月 16 日ペルー地震で発生した 津波の伝わり方	気象庁「津波発生と伝播のしくみ」 〈 http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami/generation.html 〉

○第4時

集中豪雨(1時間降水量80ミリ以上)が増加しているようす(グラフ)	気象庁「アメダスで見た短時間強雨発生回数の長期変化について」 〈http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/heavyraintrend.html〉
気象庁ナウキャスト	気象庁「急な大雨・雷・竜巻ーナウキャストの利用と防災ー」 〈http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nowcast/index.html〉
警戒レベル	気象庁「防災気象情報と警戒レベルの対応について」 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/alertlevel.html

○第5時

噴火被害の写真/桜島・雲仙岳・浅間山 日本の活火山	気象庁「活火山総覧 第4版」 〈https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/souran/menu _jma_hp.html〉
噴火被害の写真/新燃岳	宮崎県・鹿児島県 霧島山(新燃岳)噴火に関する支援チーム 「霧島山(新燃岳)噴火時に噴石等から身を守るために」
噴火警戒レベル	気象庁「噴火警戒レベルの説明」 〈https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/leve l_toha/level_toha.htm〉
自然災害に備えて私たちにできること ○気象警報の種類	気象庁「気象警報・注意報の種類」 http://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/warning_kind.html

<参考文献>

- ・文部科学省(2017)「小学校学習指導要領(平成29年公示)解説社会編」
- ・文部科学省(2020)「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨(小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部)」
- ・国立教育政策研究所,教育課程研究センター(2020)「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨(小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部)」

お問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所 調査課 〒895-0075 鹿児島県薩摩川内市東大小路町20-2

TEL:0996-22-3271 (代) FAX:0996-22-6907 (代)

Copyright (C) 2015 Sendaigawa River Office, Kyushu Regional Bureau, MLIT All Rights Reserved.